

降ひょう害後の農作物の管理について

令和元年5月22日
農業支援課

5月4日、さいたま農林管内、川越農林管内、春日部農林管内の一部地域で降ひょうがありました。

降ひょうにより、被害を受けた農作物の技術対策資料を作成しましたので、栽培管理の参考にしてください。

1 果樹

(1) なし

- 病害の発生を防止するため、農薬を散布する。ただし気温が高いときには、薬害の恐れがあるため注意する。

【防除例】

ベルクートフロアブル 1500倍 200～700ℓ/10a

デランフロアブル 1000倍 200～700ℓ/10a

- 施肥は、被害直後は原則として行わないが、被害の程度により次のとおりとする。

被害程度 (%)	施肥(葉面散布)の実施
90～100	樹勢回復のため、新葉の展開時に葉面散布を行う。
30～89	樹勢回復のため、葉面散布を行う。
30未満	葉面散布は行わない。

【施用例】

メリット(青) 500倍 150～200ℓ/10a 5～7日おきに3回

(2) ぶどう

- べと病や灰色かび病の感染を防止するため、農薬を散布する。ただし、気温が高いときには、薬害の恐れがあるため注意する。

【防除例】

オーソサイド水和剤 80 800倍 200～700ℓ/10a

(3) えだまめ

- 本葉の損傷が著しく回復が困難と判断される場合は、植え直しまたは直播きを行う。直播きのは種量は、8,000～10,000粒/10aとする。植え直しまたは直播きを行う際は、生育ステージに応じて元肥の施肥量を調整する。
 - ・定植直後の株を植え直しする場合は、施肥は行わない。
 - ・活着後～開花時期までの株を植え直しする場合は、通常の1/2（窒素成分4～5kg/10a）で施肥を行い、活着後生育状況に応じて追肥を行う。

【施肥例】

粒状苦土石灰 M-10 100kg/10a

普通化成 (8-8-8) 60kg/10a

- 植え直しまたは直播きを行わない場合は、生育の回復を図るために速効性肥料を追肥(窒素成分1kg/10a)する。べと病等の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う。

【施肥例】

燐硝安加里1号 (15-15-12) 7kg/10a

【防除例】

アミスター20フロアブル 2000倍 100～300ℓ/10a (収穫前日まで、3回以内)

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を確認し、適正に使用してください。
- 2 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。